

松本先生の思い出

山本 秀樹

松本克己先生は、1982年の春に金沢大学より筑波大学の一般言語学の教授として赴任され、私が先生に直接教えを頂くようになったのは、翌年の大学院の授業からであった。当時は、まだ一般言語学の院生は私も含めて三人だけで、他の専攻の学生達と一緒に受ける授業であったが、私にとって、学生時代、最も充実した教育を授かることのできた時期であった。特に、先生の御自宅が私の家と近いこともあり、授業が終わった後など先生と御一緒に帰れることが多く、授業の外でも先生とお話することによって、いわば一対一のような個人指導を受けられたことは、今にして思えばこの上ない贅沢な幸せであった。

松本先生の御研究については、私のような者があらためて申し述べるまでもないが、ギリシア語、印欧語、歴史比較言語学、日本語の音韻、言語類型論など、広範な諸分野にわたってすぐれた御研究をされており、まさに一般言語学の教授としてどのような学生に対しても指導のできる、万能の言語学者という感がある。私自身、大学院時代、学群の授業なども含めてもっと先生の授業に参加しておけばよかったと、就職してからも筑波大学の学生が羨ましくさえ思えたものである。

私にとって、学生時代、松本先生の思い出として最も印象深くかつ最も有益な経験の一つは、1986年の春に、節語順その他について語順地図を作製するという作業をさせていただいたことである。これは、各個別言語の語順特徴をカードにした後、模造紙大の世界白地図を色分けしていくという作業であったが、その結果が地理的に見事な連続性をもって現れたことに、大きな驚きと感激を覚えたものである。松本先生には、私が弘前大学に赴任した後も夏休みや正月の折など御自宅に伺わせていただき、その後も御指導、御助言を仰いでいるが、特に昨年、先生の大学院の授業でも思い出深いコミリーの『言語普遍性と言語類型論』の邦訳を共訳で出版させていただくことができたのは、私にとって非常に名誉で幸せなことであった。

松本先生は、筑波大学を退官された後も他大学で教鞭をとられるとのことだが、私も先生の教えることのできた者の一人として、さらに研鑽を積んで少しでも先生からの大きな御恩に報いたいと思う次第である。